

北野 紅梅むめ干

夫梅花を諸木の魁として其寧も亦萬葉の長きり
余の家客有りと幾く年を考るに後園に数株あり
年毎に多く實を結ぶ採て梅干を製し恒に食用と
す自ら風邪をけりて時疫を考るに後夫りてなれば
老の耳眼齒健にして幼を痘瘡諸濕の難をいふその
功能を本と武博士とふ答て曰まう此を味古典にあり
しゆ蓋此地ハ
聖廟の御領より最御愛樹とすし世に普く是を
所して他をいふに不ふく香高くそ皮はくはく
肉もく種もあがり全 御神徳のいもをいふ
故に常こころに合するものハ邪を避け虚を補ひ精神を
依りえむれは痰咳忽と治せん 汝若くそをく 照し
まのそいハ是を齋ぶて諸人を助る也

御 京都北野境内西今小路町
免 御繪圖所 文玉堂三宅清兵衛